

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第5区分

【発行日】令和1年12月12日(2019.12.12)

【公開番号】特開2017-124815(P2017-124815A)

【公開日】平成29年7月20日(2017.7.20)

【年通号数】公開・登録公報2017-027

【出願番号】特願2016-212719(P2016-212719)

【国際特許分類】

B 6 0 R 1/07 (2006.01)

【F I】

B 6 0 R 1/07

【手続補正書】

【提出日】令和1年10月28日(2019.10.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

自動車用の折り畳み式バックミラーアセンブリ(100)であって、

ー 自動車に取り付けられるベース部材(120)と、

ー ミラーハウジング(130)と、

ー 前記ベース部材(120)と前記ミラーハウジング(130)のうちの少なくとも1つから形成されたシャフトハウジング(150)内に挿入されるように適合されたシャフト(140)であって、それによって、前記ミラーハウジング(130)は、ミラー作動状態とミラー折り畳み状態との間で、前記ベース部材(120)に対して回転することが可能である、シャフト(140)と、

ー 前記シャフト(140)に関連付けられ、前記シャフト(140)を通じて前記ベース部材(120)と前記ミラーハウジング(130)の両方に力が加えられるように配置された弾性要素(160)と、

ー 前記シャフト(140)を前記シャフトハウジング(150)内で少なくとも軸方向に保持する手段であって、前記シャフトハウジング(150)内に形成された対応する溝(155'、155''')を通過するのに好適な、前記シャフト(140)から径方向外側に延伸している少なくとも1つの突出部(210'、210''')を備える手段(200)と、

ー 前記シャフト(140)が前記シャフトハウジング(150)から解放されることを防止する安全手段であって、前記ミラーハウジング(130)内に形成された第1のストップ部(310)及び前記シャフト(140)内に形成された第2のストップ部(320)を備える安全手段とを備え、

前記第1のストップ部(310)と前記第2のストップ部(320)は、前記シャフト(140)と前記ミラーハウジング(130)との第1の相対的角度位置においては、前記第1のストップ部(310)と前記第2のストップ部(320)の両方が互いに干渉せず、それによって前記シャフト(140)が前記シャフトハウジング(150)内に挿入され得、前記シャフト(140)と前記ミラーハウジング(130)との、別の異なる第2の相対的角度位置においては、前記第1のストップ部(310)と前記第2のストップ部(320)の両方が互いに干渉し、それによって、シャフト保持手段(200)の故障時に、前記弾性要素(160)の動作によって前記シャフト(140)が前記シャフトハ

ウジング（１５０）から解放されることが防止されるように配置された、アセンブリ。

【請求項２】

前記第１のストップ部（３１０）は、前記シャフト保持手段（２００）の故障時に、前記弾性要素（１６０）の効果によって前記第２のストップ部（３２０）に衝突するように構成された、請求項１に記載のアセンブリ（１００）。

【請求項３】

前記第１のストップ部（３１０）と前記第２のストップ部（３２０）のうちの少なくとも１つは、前記シャフト保持手段（２００）の故障時に、前記弾性要素（１６０）の効果によって、前記シャフト（１４０）が前記ミラーハウジング（１３０）に衝突したときに前記第２のストップ部（３２０）の衝撃エネルギーを吸収すべく、破損するように構成された、請求項１または２に記載のアセンブリ（１００）。

【請求項４】

前記第１のストップ部（３１０）と前記第２のストップ部（３２０）のうちの前記少なくとも１つは、前記シャフト保持手段（２００）の故障時に、前記弾性要素（１６０）の効果によって、前記シャフト（１４０）が前記ミラーハウジング（１３０）に衝突したときに前記第１のストップ部（３１０）と前記第２のストップ部（３２０）のうちの前記少なくとも１つの衝撃エネルギーを吸収すべく、破損することなく変形するように構成された、請求項１から３のいずれか一項に記載のアセンブリ（１００）。

【請求項５】

前記第１のストップ部（３１０）と前記第２のストップ部（３２０）のうちの少なくとも１つは、弾性的に変形するように構成された、請求項４に記載のアセンブリ（１００）。

【請求項６】

前記第１のストップ部（３１０）と前記第２のストップ部（３２０）のうちの少なくとも１つは、塑性的に変形するように構成された、請求項４または５に記載のアセンブリ（１００）。

【請求項７】

それぞれ前記ミラーハウジング（１３０）と前記シャフト（１４０）内に形成された前記第１のストップ部（３１０）と前記第２のストップ部（３２０）は、バヨネット型の安全手段を規定している、請求項１から６のいずれか一項に記載のアセンブリ（１００）。

【請求項８】

前記第１のストップ部（３１０）と前記第２のストップ部（３２０）のうちの少なくとも１つは、複数の環状扇形を含む、請求項１から７のいずれか一項に記載のアセンブリ（１００）。

【請求項９】

前記第１のストップ部（３１０）と前記第２のストップ部（３２０）のうちの少なくとも１つは、前記シャフト（１４０）の周囲に４５度から１８０度の範囲の角延長部（ $\alpha 1$ 、 $\alpha 2$ ）を有する、請求項１から８のいずれか一項に記載のアセンブリ（１００）。

【請求項１０】

前記第１のストップ部（３１０）の前記角延長部（ $\alpha 1$ ）は、前記第２のストップ部（３２０）の前記角延長部（ $\alpha 2$ ）とは異なる、請求項１から９のいずれか一項に記載のアセンブリ（１００）。

【請求項１１】

前記対応する溝（１５５'、１５５''）は前記ベース部材（１２０）内に形成されている、請求項１から１０のいずれか一項に記載のアセンブリ（１００）。

【請求項１２】

前記第２のストップ部（３２０）は、前記シャフト（１４０）の一端（１４５）に形成されている、請求項１から１１のいずれか一項に記載のアセンブリ（１００）。

【請求項１３】

前記保持手段（２００）は、前記シャフト（１４０）と前記ミラーハウジング（１３０）

）との前記第 1 の相対的角度位置において前記シャフトハウジング（150）と干渉しないように配置された、請求項 1 から 12 のいずれか一項に記載のアセンブリ（100）。